出会いはうつわから

柳ケ瀬中心部の近くに空き家をリノベーションしたお店「まめぐら／ミカヅキ」が誕生しました。
店主は大野日和さん。
毎日使うものだからこそ、お気に入りのうつわを。コロナ禍だからこそ食べることをより楽しく。
そんな暮らしを豊かにするお店を持ちたいという夢を叶え、まだまだ「ワクワク」しながら前に進む大野さんの姿をご紹介します。

まめぐら／ミカヅキ オーナー店主 大野 日和 さん

「うつわ以外の物も扱っているので、セレクトショップや雑貨屋さんと呼ばれがちですが、あくまで『うつわ屋』だとこだわります」

そう笑顔で語るのは、店主の大野日和さん。

元々うつわ好きだったことから、瑞穂市の自宅の一部で、5年ほどお店を営んでいました。

全国から選りすぐりの8人の作家物を取り扱い、つながりは10年以上になる方も。作家さんには実際に会いに行き、作品を見せてもらい、手に取り、本当に気に入ったものを仕入れています。

自分が店を持つことで、まち（柳ケ瀬）の賑わいの力になりたい

いつかは独立した店舗にしたいと、長年物件を探していましたが、思うような場所や物件になかなか出会えず…。

そんな時に「楽しそうだな」と、気軽な気持ちで参加したリノベーションスクールがきっかけで、柳ケ瀬エリアに興味を持ちました。

「スクールで、柳ケ瀬のまちづくりに関わるようになり、自分がお店をつくることが『まちづくり』に繋がっていくということを学びました」

岐阜市で生まれ育ったということもあり、柳ケ瀬エリアにお店を持ちたいと思う気持ちは自然な流れでもありました。

出会いに感謝

開業資金には、クラウドファンディングを活用。

「リノベーションスクールで知り合った仲間たちの協力を得ながら目標額を達成することができました。お店の内装を手伝ってくれたり重い資材を運んでくれたり、仲間の力にほんとうに感謝しています」

クラウドファンディングを活用したことによって、「こういうことをやってる人がいる」と多くの人に知ってもらえるきっかけにもなりました。

「お母さんだけど自分の店を持ちたい。いつかは、大好きな作家さんたちの個展をひらいて、もっともっとうつわの魅力を知って欲しい」

そんな目標を掲げた大野さんには、多くの支援が集まりました。

商工会議所との出会いも。

「たまたま知人から商工会議所のことを聞いて足を運んだことがきっかけでしたが、創業計画書作成や、何となくしかわからないお金に関する知識などのアドバイスをいただいたり、ものすごく助けていただきました。お店をつくる上で何より重要な出会いでした」

「うつわ」には誰かの役に立つ可能性がある

オープンは昨年の10月。コロナ禍の中での決断でした。

「決断する前には、一度立ち止まってじっくり考えました。そして、自分の中に『やりたい』、という気持ちが強いことを再認識しました」

そこには、自分がやりたい、楽しいだけではなく、それが「誰かの役に立つ可能性がある」のだという気持ちがありました。

「例えばこれまで作家物を使ったことのない方が、購入したのをきっかけに『使ってみたらよかった』とリピートしてくださいました。うつわは飛ぶように売れるわけではないですが、馴染みのない方がうつわに触れることによって、使ってよかったと思うようになってくれる『可能性』がうれしいです」

また、コロナ禍で、家で過ごす時間が増えたことも、うつわの魅力を伝えるチャンスだと感じています。

「うつわは『食』と合わせることによってさらに良さをわかってもらえるのではないかと思っています。今まで料理をしなかった方がYou Tubeを見て料理をするようになり『出来上がったものを見てその画像と何が違うのかな、と考えたときにうつわが違うことに気づいたから買いに来た』という若い男性がいらっしゃいました」

新しい観点だと気付かされた出来事でした。

大野さんは、うつわを必要とする世代の幅が広がっているなと感じ、さまざまな可能性を広げていきたいと語ります。

オーガニックの野菜や調味料にこだわったスープ

「季節によって衣を替えるように、うつわも食事によって替えられたら楽しいということをこの店を通じて提案したいです」

その取り組みの一つが、併設するカフェ「ミカヅキ」です。店のうつわを実際に使っていただき、使い心地や使い方を提案しています。

現在はコロナの影響でテイクアウトのみですが、オーガニックの野菜や調味料にこだわった日替わりスープが自慢です。

小さくても「継続」しながら少しずつ進化していきたい

今後は、全国にいるうつわファンや小さいお子さんがいたり、体の無理がきかないなど、簡単に外出が出来ない人のために、ネットショップにも力を入れたいと考えています。

「具体的には今年中には始められたらいいなと思っていますが、お店をやりながらのネットショップとなると、ちゃんと整えてから始めたいので焦らずにやりたいです」

「私は、お店の経営者である前に一人の娘を持つ『お母さん』でもあり、自分の体のことも考えて無理なくやることが大事だと考えています。女性でもお母さんでも、自分の好きなことを仕事に出来たらいいなという思いがあるので、家庭と自分の好きなこととをどうやってバランスを取っていくか、私が体現して見せていきたい、同じような思いの女性やお母さんが迷った時に何か相談にのりたい、と強く思います」

そして

「今、好きなことを仕事に出来てワクワクした気持ちが止まりません」

――ワクワクし続けたい。

大野さんのやわらかい笑顔が店いっぱいに温かく広がります。

「わかあゆ賞」を受賞！

岐阜商工会議所の支援を受け岐阜市内で開業した創業者や地域産業資源を活用し新たな商品・サービス等を開発し、または開発に挑戦する会員事業所に対して、会頭・副会頭がその門出を祝福する賞です。